第2回 伊東市教育問題懇話会 会議録

- 1 日 時 令和6年10月1日（火） 午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟 5階中会議室
- 3 出席委員 7人（篠原峰子委員、飯塚啓太委員、石井照市委員、稲葉雅之委員
関野耕一委員、利岡正基委員、吉田勇輝委員）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 教育長 高橋雄幸、教育部長 浜野義則、教育部次長兼教育総務課長
杉山宏生、教育指導課長 森田まり、教育総務課課長補佐 掬川宗範
- 6 会議の経過

篠原会長：皆さんこんにちは。定刻になったので、ただいまより第2回伊東市教育問題懇話会を開会する。まず事務局より、諸般の報告がある。

事務局：（配布資料の確認）

本日の会議は午後4時までの2時間を予定している。

篠原会長：議題に入る前に、会議の公開についてお諮りする。伊東市教育問題懇話会設置要綱第5条第4項により、会議は公開にて行いたい。御異議ないか。

（「異議なし」の声）

篠原会長：御異議なしと認め、公開により行う。それでは議題に入る。議題(1)3校統合（東小、西小、旭小）の検証について事務局から報告がある。

事務局：（資料②に基づき説明）

篠原会長：今の説明に対して御質問などあればお願いしたい。（質問なし。）

特にないようなので、議題(2)の地区又は学校ごとの概況・今後の見通しについて、議題(3)の地区ごとの具体的方策について、一括で事務局から説明がある。

事務局：審議方法について説明する。本日は宇佐美地区（宇佐美小、宇佐美中）と旧市街地地区（伊東小、北中）の2地区について審議をお願いする。

宇佐美地区について説明する。あわせて、教育指導課長から小中一貫校と義務教育学校の違いについて説明する。

篠原会長：それでは宇佐美地区について審議をする。まず全員から意見を伺う。1人当たり最大3分程度でお願いしたい。事務局へ質問のある委員は、御自身の意見の中でお願いしたい。委員全員の発言後に改めて意見のある委員は挙手をお願いしたい。

委員：未来ビジョン会議の中で3年か4年後に伊東駅のロータリーが新しくなるのではないかという話があった。これに伴い、現役世代が多く入ってきて、子育ての世代が伊東駅周辺で多く広がっていくのか、それとも本当にお金持ちの人しか入ってこない状況になっていくのかで大きく変わってくる。どちらになるのか正直分からなかったもので、ポジティブに捉え、現役世代、特に子育て世代が入って来る町になるのを見越して、宇佐美地区は、旧市街地地区に統合していった方が良いのではないかと思う。特に宇佐美小学校は、既に単学級になっており、なるべくクラス替えが可能な環境を維持したい。また、立地は津波の被害が予測されているので、場所を変更する必要があるのではないかと思う。文化交流については、宇佐美地区は、旧市街地地区と統合した後に、校外学習等を利用し、居住地に関係なく選択制にして、いろいろな選択肢がある中で、興味のあることを見つけるチャンスだと捉え、統合した方が良いのではないかと思う。時期については、令和10年度末までに、中学校、小学校ともに統合するべきだと思っている。なるべくクラス替えが可能な環境の維持をしたいというのが一番の理由である。

委員：単学級になっていくのは数字としてほぼ見えているので、その前提で考えたときに、どこかの学校と統合するか、あるいは小中一貫校で教育の質を上げるという、この2択であると捉えている。先ほど事務局からの説明にもあったように宇佐美地区は、父兄の中の御意見でも今の学校数のままで良いという選択の割合が圧倒的に多いのも、すごく地域性があると思っている。地域に根付いた生活様式、文化が他の地域に比べても非常に大きいので、宇佐美小学校と宇佐美中学校を一貫校として、一貫校前提としては、同じ施設の中で一貫校にしていくというのが、私の意見である。理由としては、申し上げたように、宇佐美という土地柄、あとは何

のために単学級をなるべく複数学級にするかは、やはり子供たちの教育の質を保つためである。小中一貫校の中で、連続性が確保できる。他の地区と統合しなくてもある程度教員の専門性を生かした指導できると思うので、一貫校が良いと思う。時期は、資料で児童・生徒の推移を見ると、最終的には令和11年度4月から宇佐美小学校が全学年単学級になるという見込みなので、令和11年度末までには小中一貫校を設立すべきと考えた。

委員：宇佐美地区は、統合すべきであると考えている。統合の仕方としては、小中一貫校若しくは義務教育学校のどちらかではないかと思う。先ほど教育指導課長から小中一貫校と義務教育学校の違いの説明があったが、どちらかというとは私は義務教育学校よりも小中一貫校の方がふさわしいのではないかと考えている。子供たちの教育環境のことはもちろん一番大切だが、学校や子供の教育をするに当たって、教員の数が非常に必要になってくる。中学の6学級と5学級はかなり差がある。主要教科5科目である英国数社理は一定の時間数があるので、1人その担当教科の教員を充ててある程度対応できる。しかし、専門教科である美術で言うと、極端な話、週に1時間という週もあると、1週間で5学級だと5時間の授業をして、1人の教員の配置になる。そうすると、5学級で5時間の授業以外に、その先生は何をしているかということになり、美術等の専門教科は、免許外教科担任を充て、教員を配置しないことが多い。中学が5学級であると教員の数が少なくなり、全教科の免許を持っている教員を配置することが非常に難しくなる。そういう状況を考えると、小中一貫校にして、小学校だけど、美術の免許を持っている教員は、中学校と兼務しその時間だけ中学校で教えることができるというのは、子供の教育のためになることから、小中一貫校若しくは義務教育学校にした方が良いと考えている。特に宇佐美地区は、独自の色合い、宇佐美独自の山川海といろいろなものがある。それらを一貫して9年間で教育するというのが更に良いと思う。あとは特別支援学級、通級指導教室のあり方である。どういうふうになっていくか分からないが、市街地中心部と離れているので、総合的に判断して、小中一貫校若しくは義務教育学校の

中に特別支援学級や通級指導教室を取り入れていくという方向で良いと思っている。時期は、資料を見ると、令和9年度4月からを考えていかなくてはと思っている。その理由の一つは、小学校と中学校を合わせると13学級になり、今の宇佐美小が12学級なので、ほぼ同規模になるからである。また、令和10年度4月になると中学校が5学級になり、教職員の配置がかなり厳しくなるので、転換点の候補である。遅くとも令和11年度末までにはかなりの確率で統合を進めていった方が良いと思う。最後になるが、宇佐美地区は、比較的沼津三島方面の中学校に行く子供も多い。他地域への流出を防ぐために、伊東で初めての小中一貫校ということで、一つの目玉になって9年間通して宇佐美地区で勉強したいという子供が増えれば良いと考えている。通学方法も、いろいろな地区で大きな問題を抱えている。電車で伊東駅まで来るとするのは一つの手段だとは思いますが、さらに乗り継ぎということを考えると、なかなか市街地地区との統合が順調に進むのかというのは疑問である。総合的にいろいろなことを考えると、最初に申し上げたとおり、小中一貫校若しくは義務教育学校であると考えている。

委員：地区ごとに意見を述べさせていただくが、他の地区とも関連するので、関連させながら考えなくてはいけないことである。宇佐美の場合、中学を市街地地区に統合するか、あるいは市街地の生徒が宇佐美中に通うかとなると、単体地域だけでは考えられないと思う。宇佐美地区に関しては、小学校入学前から小中学校と大体同じようなメンバーでクラス構成を行ってきた。これはもっと人数が多いときはさまざまなクラス編成もあったと思うが、現状なかなかできない中で、9年間一緒に過ごすということが、既に行われている。ただ、場所が違う、敷地が違うということなので、小中一貫校にするか、義務教育学校にするかで敷地をまとめて、あるいは校舎を統一することが、宇佐美地区だけで考えると妥当かなとは思っている。そこには大きなハードルはない。経済的な合理性も重要だと思うので、あえて別々の敷地に置く必要はないだろうと考えている。中身はそれほど変わらない。小中一貫校か義務教育学校か、これはよく分からない。大きな違いとして、小中それぞれ校長

や職員組織があるのが小中一貫校、義務教育学校は校長1人で一つの職員組織、これがどういうふうに影響するのかよく分からない。校長が1人だと、まずいのだろうか、校長が小中それぞれに同じ校舎にいながら別々にいけば、おそらく校長の負担は減るし、職員の管理や教育の集中等やり易いのかもかもしれないが、そこにはコストがある程度かかるので、無視できる問題ではないと思う。だからと言って、そのどちらが良いとは言えないが、もし小中一貫校だとすると、一つの施設に設置をすることは最低必要であると思っている。わざわざ校舎を増設するような必要はない。校舎に空いているスペースがあるので。時期については、無理のない時期でと思う。なぜかという、そもそも小中一貫のような形が敷地を離れても行われているわけで、今更1年2年急いでもしょうがないなと思う。無理なく教育環境の体制を整えながら進めていけば良いと思う。

委員：宇佐美小中は、児童生徒数は減少し続け、令和12年度には、今年度と比較すると、約38%減少する。宇佐美小は昨年度、2年生が単学級になっている。また、学級数も減少して、宇佐美中は、令和12年度4月には、全学年が単学級になる見込みである。宇佐美中の校舎は、大変古く、老朽化が著しいことから、小中一貫校に検討すべきと考えている。学校環境の整備のスケジュールは、児童、生徒数の減少がさらに顕著になったときに、改めて審議をして、時期を決定すべきと考えている。学校環境の整備に伴う留意事項は、地域の伝統や文化の継承、また郷土芸能の正確な伝承を続けていく必要はあると思う。大切なことであると考えている。また、コミュニティスクールを通して、学校、地域、家庭が連携協働し、子供たちの学び、成長に繋げていく必要があると考えている。さらには、地域住民への丁寧な説明が必要である。自然災害等の避難方法については、スマホなど防災アプリを利用した訓練による対応が必要であると思う。なお、今回の議題については、宇佐美地区と旧市街地区の2地区についての審議であるが、4地区すべての現状を踏まえて審議をしなければならないとも考えている。

委員：宇佐美は小学校中学校一貫が良いのか、義務教育学校が良いのか分から

ないが、一つにした方が良いと思う。宇佐美の知り合いに話を聞くと、正直、小中だけじゃなくて、幼稚園から、下手すれば高校までずっと顔ぶれが変わらないということもあるようである。下地ができていたといえはできていたので、特に小中一緒になっても違和感はないと思う。しかしながら、小中一貫校になっても児童数が劇的に増えるかどうか分からない。他の委員の意見にもあったように、人数が減り、単学級が出てきてしまうので、その際は別に考えなくてはいけないと思う。また宇佐美の知り合いとの話なるが、最近少し移住してくてくれる人がいるようである。子育て世代かどうか分からないが、少し子供の増加に期待できるかもしれない。コロナ禍からの働き方改革で、実際東京の会社に行かなくても、リモートワークができるようになり、移住者が増えてきているようなので、少し期待できるかもしれない。時期は、子供の人数が減るのは分かっているので、小中一貫校で話が進むのであれば、今後いつと決めないでどんどん進めても良いのではないかと思う。留意事項は、同じ敷地で小中一貫校であれば、場所の選定等いろいろ決めなければいけないことはある。津波等の災害関係もあるので、建物をどうするか、高台に作るのか、低地で高台を作るのか。沼津市の静浦の小中学校のように、グラウンドはあるが、メインの運動場を高台にし、校舎は、1階は駐車場で2階から教室する、というのもありかと思う。

委員：整備方法については、小中一貫校が良いと思う。旧市街地地区との統合とどちらが良いのかすごく迷った。でも小中一貫校が良いと思った。ただ宇佐美中については、小中一貫校になったとしても令和12年度には単学級になることは変わらないので本当に迷った。その一方で、保護者のアンケートの中でもあったように現在の学校数のままで良いという選択する割合が、圧倒的に多かったということで、効率だけ考えて、統合してしまうのは地元の人を考えると、なかなか難しいと思った。時期については、令和11年度末までには、中学校が単学級になる前に小中一貫校にした方が良いと思う。留意事項は、小中一貫校にするということであれば、どれだけ宇佐美地区ならではの教育、魅力ある学校作りができていくと

いう、地区の特色を前面に打ち出していった方が良いと思う。前回の懇話会において委員の発言としてあったが、地区ならではの教育、地域を大好きになるような学校作りというのは絶対的に必要である。小中一貫校にすることのメリットを、子供たち、保護者、住民が感じるようになって、賛同する声をたくさんいただきながらスタートした方が良いと思う。ただ一方で、中学校は、やはり学級数が減ることで、いろいろな不都合が出てくる。小中一貫校にすることで、教科担任の問題についても小学校と連携していくことができる。今、小学校についても、教科担任制の動きがあるので、小中連携をしていくことにより、教員の確保に対応できるのではないかと思う。中学校の部活動については、今の地域移行や校外の部活が少し増えているので、前向きに検討していくことが可能ではないかと思う。あと、人間関係が固定化していくので、学校で居場所を失った子供への対応は絶対必要である。スクールカウンセラーを常勤化する等、特に地域の方との協力体制を強化していく必要がある。

篠原会長：皆さんの意見を聞いて、ほかに何か意見があるならお願いしたい。

委 員：宇佐美地区は、市街地と統合するかしないかであれば、多くの委員がしないという意見で、宇佐美地区の中でどうするかという発言をしている。しかし、それなりに先を見たスケジュールでいえば、ずっと宇佐美地区だけでなく、何年後には市街地との統合が必要になると繋がっていくはずである。例えば、宇佐美中の統合先は北中とするならば、北中自体が存続しないなら、北中が中心になっていくという想定はできない。それならば、宇佐美から南中まで行くか、門野中までいくかということは、なかなか想定しづらい。市街地と統合という意見が出にくいと思う。この先に市街地地区について議論する。北中がどうなるのか、北中が残らないのであれば、宇佐美中との統合はないだろうという考えになり、宇佐美の中でまとまるか、思い切って宇佐美から市街地などの学校に通ってもらおうかということになる。北中ありきではなくて、南中や門野中を中心に集約するということならば、市街地との統合もあるが、現状少しハードルが高いと委員の皆さんも思っているので

はないか。だから段階的なものになるかもしれない。

委 員：基本方針を見ると中長期的な見方で、市内の中学校は北部と南部の2校程度に統合という検討結果が出ている。南部は対島地域が1校、それ以外が北部という考え方になると思う。そう考えると、いずれこの2校になる、そこがゴールとなると、宇佐美中も吸収されていくと考えたときに、この小中一貫校が何年存続できるのか。すごく迷ったが、地域の人声は無視できない。地域の人がこの学校の子供たちをすごく大事にして、みんなが協力し合って、盛り上げていくという形をできるだけ維持していくのが良いという気がした。

委 員：伊東市全体で考えると、今おっしゃられたとおりだと思う。それと合わせてふと思ったのは、小中一貫校にした場合は、その後、市全体の統合を考えたときも、ある程度スムーズに進んでいくと思う。小中一貫校と義務教育学校の違いについて先ほど教育指導課長から説明があったが、一番の違いは、小中一貫校というのは同じ敷地又は隣にあっても、小中学校である。教育課程そのものは変わらない。しかし、義務教育学校は、教育課程が変えられるので、別に小中ではなく、例えば2年、4年、3年や3年、3年、3年という組み方ができる。小中という概念はある程度外して、前期、後期課程や、1年生から4年生と5年生から中3までの枠組みができるので、今後いろいろな統合を検討するときに、義務教育学校を作ると解体しなければならない。それなりに手間がかかると思う。小中という大きな枠組みは変わらないのであれば、更なる再編となっても、スムーズに進むと感じている。

委 員：地域の声というのはすごく大事だと思う。地域にはいろいろな意見があるので、十分検討していく必要がある。

委 員：小中一貫校を進めていくとなったときに、今の建物をそのまま生かしていくのであれば施設分離型も可能であると思うが、一体型や隣接型という意見があった。一体型や隣接型の場合、建物自体は、どちらの場所を使用するかは別として新しく建てるという認識で良いのか。

委 員：それは、またこれから議論していくことだと思う。もし建て替えるなら

ば、宇佐美中学校と宇佐美小学校の築年数を考えていくと思う。また、どちらの土地が良いのか、広いのかも考える。校舎の建替えについても議論して良いのか。

事務局：問題ない。

委員：先ほど経済的合理性について少し話をした。福祉や教育は、行ったこととその結果に対する因果関係の証明がなかなか難しい。応用が難しい分野だからである。人は、何か見てすごく良いことをやっている、私達はとても奉仕をしていると思いがちかもしれないが、実はそれが本当に効果のあるものなのかどうかよく分からない。教育のような長い年数をかけて行うものも、同様だと思っている。別のやり方が良かったかもしれないという検証は、なかなかされない。文科省のいろいろな資料を見ると、人のアンケート集計結果があっても、人の主観であり、必ずしもそれが科学的な根拠であるとは言いづらいと思う。私が仕事している福祉の分野もまさにそうである。校舎については、今学校が小中2つあって1つの敷地に統合をしても、ソフト面である人間は変わらない。子供たちは、幼稚園のときからずっと一緒に過ごしているので、1つの敷地に統合しても、人間関係が崩れたり、規模が変わり戸惑ったというのはそんなにないわけで、やりやすい。あとはハード面のことである。ハード面は、この先、旧市街地などとの統合も想定すると、あまりお金をかけるべきではないと思う。市の経営という観点でも、やはり市の財政を考えるべきだと思うし、それが市の経営を優先して子供の利益を後回しているという話には全くならないと思う。そういうふうに思われがちだが、使えるものはやはり使っていくべきであり、統合したからといって新しいものを作り、華々しくデビューする必要はないと強く考える。

委員：校舎のことに関しては、子供の減少により、利用する教室も減っている。宇佐美地区の校舎は、小中どちらかを利用することを前提で考えている。伊東市全体の将来的な統合を考えたら、建て替えることは財政的に厳しいと思う。それと委員の皆さんの意見をいろいろ聞いていると、宇佐美は、小さい頃から一緒に過ごしてきたので、小中一貫校になりやすいと思う。専門的な意見だと思ったのは教

員の配置の問題であり、小中一貫校においては、すごくメリットがあると思った。先ほど、令和11年度末までにとこの発言をしたが、遅くともそこまでという意見である。令和9年度4月からという話もあったが、子供たちの問題がある程度クリアとなるなら、残りの問題は校舎、ハードの問題や教職員の配置の話であれば早い方が良いと思う。それから地域との関係性は、他の地区を審議するときも、共通して直面する話である。今後、どう環境を作っていくかに関しては、宇佐美だけの問題ではなく、いかに地域学習を進めていくか、共通して言えると思う。どの地区もそうだと思うが、今のままで良いと思う方が、感覚的には多いと思う。地域の方の声は絶対にそうなる。子供たちの教育環境等をどうしていくかがやはりベースにあると思う。統合まで何年ということであれば、地域の方とコミュニケーションをとり、理解を得ることに時間を費やしていく必要があると思う。

委員：地域の話である。少子高齢化が進んでいき、学校がなくなり、過疎化や限界集落化が進んでいくということが日本全国では起きている。一方でメリットとして、地域の方と少人数の学校であると、そこには交流が盛んに行われ、地域全体で子育てをするんだというイメージがあると思う。よくそういうことは取り上げられる。全国的なこれまでの村の歴史のようなものを見ると、必ずしも全ての子供たちがその場に参加できているか、家庭によっては、そのコミュニティに参加できない家庭が、本当になのかと考えると結構ある。そうすると、盛り上がっているメインの集団とそこには参加できない人たちの関係ができやすいのも、そういった小さい村である。これが小学校における子供たちの関係性に影響する例も研究ではあり、読んだこともある。そう考えると、地域のイベントに子供たちが一緒に参加してすごく楽しい映像をよく見るが、それだけが全てではないということを私達は科学的に捉えなくてはならない。だから良いイメージだけで福祉は良いことだと思い、進めてしまうのは、行政が行う会議としては物足りないと思う。そこは冷静に考えていく必要がある。良い面だけじゃない。地域での交流やその輪に入るが嫌で地域を出て行く人が本当にいないのかどうか。こういうことも考えると、いろいろな見

方ができる。

委員：やはり人間関係が固定化していくということは、どうしても、メリットだけではなくて、デメリットも出てくる。

委員：一点だけ申し上げたい。もし今後、小中一貫校を進めていくなら、施設分離型だけは絶対にしてはいけないと思う。小中の場所は少なからず同じ校舎にしないといけないと思う。人的な配置で小中を兼務している教員はいるが、あれだけの距離であっても、結構負担がかかる。総合的に考えて、施設分離型は避けたい。

篠原会長：施設について委員の皆さんにお聞きしたい。施設は一つということで良いか。

事務局：今、ご意見を伺う中では既存のものを活かした方が良いという御意見かなと思った。教育委員会では、施設の老朽化の問題は避けられないところである。なるべく新しい施設を活かす方が良いと思う。しかし、それができない場合は、壊して一体にしながらかも新しくするという選択もあるかと思う。基本、新しい既存のものを活かすとしたら、宇佐美小であると思う。

篠原会長：宇佐美小も築30年で決して新しくないが。宇佐美小は校舎が2つある。新しい方が築30年で、古い方が築50年である。古い方を壊して、一体型にして建て直す考え方もある。施設が一体型、また隣接型に対して御意見はあるか。

委員：委員の皆さんがおっしゃるように、同じ敷地内にあった方が良い。西小は、50年使用したと思う。そう考えると、まだまだ使用できるという気はしてしまう。できれば同じ敷地の中で校舎も新設することなく。部屋数は足りているはずなので。市内を見渡すと、廃校ばかりである。西小、旭小、伊東高校。こういうのがこれからも増えていくのに、新しいものを作ることについては少し疑問に思う。

委員：跡地利用については、スピード感を持って、子供の居場所として利用できればと思う。

委員：跡地利用の子供の居場所についてである。子供の数はどんどん減っていく。学校もスカスカで、コミセンもそんなみんなに使われているわけではない。保健セ

ンターがあって、また新たに憩いの場所にしようと言っているが、（利用）人口が追いついていかない。高齢者の数が今多いので、この人口だが、実際に出歩けない高齢者もあり、（利用）人口がもっと少なくなる。この傾向がこれからも続く中で、地域のコミセンのようなものだらけになってどうするのだろうと思っている。施設を壊すのも大変だし、実際に予約が取れないぐらいどこも満員という話も聞いたことがない。こういう現状も合わせて考えていかななくてはいけない。

篠原会長：それではまとめていく。学校の環境の整備方法については、小中一貫校。施設としては一体型。スケジュールについては、できるだけ早い方が良いという中で、最低でも令和11年度末までに。整備に伴う留意事項については、地域を生かした教育、地域と連携をし、地域学習も取り入れながら、地域の伝統の継承、地域の方とともに作り上げていく、9年間の人間関係が固定化していくので、その中で居場所をなくした子供への対応となる。よろしいか。

（「異議なし」の声）

篠原会長：次に旧市街地地区（伊東小、北中）について審議をする。事務局から説明がある。

事務局：旧市街地地区（伊東小、北中）について説明する。

篠原会長：まず全員から意見を伺う。1人当たり最大3分程度でお願いしたい。事務局へ質問のある委員は、御自身の意見の中でお願いしたい。委員全員の発言後に改めて意見のある委員は挙手をお願いしたい。

委員：北中出身だから残ってくれるのが一番良い。しかし、状況を考えると、南中と一緒にの方が良いと正直思っている。アンケート結果でも出ているとおり、今伊東小だから一緒にいるけれど、中学校でバラバラになってしまい、人間関係に影響があると思う。これは北中に限らず、門野中にも同じことが言えると思うので、考えていかななくてはならない。また、部活や人間関係で南中に流れる子供は今後増えていくと思うが、そこは仕方ないというのが正直な意見である。整備スケジュールは、令和9年度末までを目安と考える。今まで北中エリアは、西小学校か

ら北中に行くという流れがあった。それが今後どのように変わっていくのか。今、令和5年度から伊東小になって、1年半になる。まだ、中学の兄が北中に行っているから弟が北中に行くという流れがある。しかし、兄が北中を卒業した後に、下の子は北中に行くのか。やりたい部活があり、仲の良い友達がいたりで、南中に行くという流れが多くなってくると思うので、そこも考慮すべきである。資料にもあるとおり、現状、北中は5学級あり、1年生、2年生が2学級、3年生が1学級である。それが全学年1学級になったときに考える目安であると考えている。先日、北中で奉仕作業があった。湯の花通りの商店街の人や、キネマ通りの商店街で働いている人と話す機会があった。伊東駅があり、伊東の中心部の学校なのに、街中で子供たちが歩いている姿をそんなに見ることがなくなり、寂しいと感じているようである。また、伊東の中心地にも関わらず、小学校がなくなっているのもおかしいという意見もあった。子供たちの数が減っているのも、仕方がないのは分かるが、商店街の人たちも、小学校から見ている子供で、全然知らない子であっても、毎日その子たちを見ている、成長を見守っているという感覚もあったので寂しく感じている。留意点は、仮に南中に通うことになったら、通学補助があるのか。今、小学校はスクールバスが出ているが、同じように南中まであるのか。それとも単純に金銭的な補助なのか。そういう意見があったので、伝えておく。

委員：北中は、令和12年度4月から同じ敷地内で小中一貫校と考えている。

篠原会長：伊東小と北中の小中一貫校ということか。

委員：そのとおりである。

委員：資料に対策案として、市内の他の中学校との統合や、小学校との小中一貫校などが案として出されているが、いずれでもないと思っている。どことどこの中学を統合と決めなくても良いのではないか。例えば北中に通っている生徒の中で、比較的門野中寄りの人は門野中に通うだろうし、南中に近い人は南中に通うだろうし。そのように別れる可能性がある。だから、どこと統合という必要はないような気はする。資料2の最後のページに全部目を通した。最後のページの最後の御意見

である。統合に関する感想自由記入欄に書かれた意見である。西小学区の子に聞くと、ほとんどの子が南中の進学を考えている。実際娘も南中に行きたいと言い始めている。このままでは北中へ進学する子はほとんどいないと思う。と書いてあり、本当かと私は思った。もしかして誰か情報操作しようとしているのではと少し疑っていた。たまたま自分の会社の仕事関係の人たち、西小に通っているお母さんたち、あるいは西小から北中に行ったお母さんたち6、7人と話をした。そしたら本当だった。うちの子は、小学生だが、初めからもう南中に通わせようとしていると。街中の方である。途中で転校するのは嫌なので、最初から南中に行く予定だと、そのお母様も決めていると言っていた。だから、北中が、このまま継続することはないというのは、何か父兄の中ではもう当たり前になっているという意見があった。複数あった。そういった覚悟はしているのかなど。覚悟と同時に、やはり少人数のままだと、子供の生育上あまり良くないなら、大きなところに行ってと思っている人が意外と多いかなと思った。かつて南中と北中があり、門野中が1987年にできた。そのとき、北中に通っていた荻、十足の人たちはみんな門野中に行くようになった。今度は、北中の再編により、北中の子たちが、南中か門野中に行くことになるという流れで良いではないか。統合や小中一貫ではない。小中一貫で今の伊東小と一緒にあったところで、いろいろな問題は解決されないと思うし、むしろいろいろ大変なことが起きる気もするので。整備時期は、宇佐美の小中一貫校に整備する方がハード面では簡単にできそうなのでそちらを優先していただきたい。あるいは、同時並行的に進めることに決めたら、それでも良いのではないかと考えている。それは今の保護者の人たちが、もうそういうつもりでいる人が意外と多いからである。西小学校がなくなるときに、西小学校は歴史もあるし、近隣の住民の方が寂しい、年寄りばかりになってしまうという声は聞かれた。しかし、そう言っている方たちも、子供たちのためなら仕方がないと、皆さんおっしゃっていたのを聞いている。北中というのは、山の上にあって、街中ではない。駅の近くとは言っても、近隣の住民ともそんなに関わりがあるような感じではないので、あまり気にせずに進めて

いけるのかなと思う。

委員：北中は、最初南中と統合と思った。しかし、今、意見を聞いて、やはり統合という言い方はどうかと思った。ただ、市教委がどう考えているか分からないが、北中を再編して、門野中と南中の学区を決める段階で、どこで線引きをするのか。北中の今の学区がそのまま南中となるのか、門野中寄りの北中学校の子は門野中という選択肢もあるのかと思った。その理由としては、部活動の確保、先ほど話した教員数のことを考えると、3学級になった段階で、かなり大きな課題であると思う。それから、伊東小の卒業生のことである。結構な数の子供が南中へという希望があるようだ。部活動の地域移行について市教委で検討していると思うが、その進捗状況も合わせて、総合的に判断するべきと思う。整備時期は、いくつか案がある。1つ目は、南中の学級数（令和元年度の19学級）と同数だとすると、令和8年度4月（南中15学級＋北中4学級）から門野中と南中の選択制である。2つ目は、令和8年度末までに整備である。令和9年度4月からは、北中が3学級になる予定のときである。これはどうしても避けたい。最後の3つ目は、伊東小に入学し3校統合を経験していない子供だけになるのが、令和11年度4月からであり、その接続を考えるとスムーズにいくと思う。3案述べたが、北中へ進学する子供の人数によって、時期は判断しなければならないかもしれない。最後に配慮すべき点としては、通学方法、バスである。通学補助の地域について配慮すべきである。それと旧市街地の歴史文化の伝承、継承である。伊東の歴史ある街中の文化が失われなような方法を検討すべきである。

委員：北中は、南中又は門野中と考えていた。通学距離や部活の関係があるので、選択制が良いのではと思う。北中は統合というよりは、いつからどちらかの学校に通えますという形になると考えている。整備の時期は、令和8年度末までとし、令和9年度4月から南中又は門野中の選択制になるという考えである。既に南中に進学を考えているという話があるならば、地域への説明は丁寧にやる必要があると思うが、そんなに時間はかからないのではないか。最終リミットは令和9年度末ま

でであると考えている。留意点に関して共通して言えることは、統合により、地域コミュニティの部分が非常に弱くなっていくので、いかにして地域学習を進めていくかだと思う。今後、通学距離が長くなるので、スクールバス等による交通手段の検討も必要である。

委員：北中と宇佐美中、伊東小と宇佐美小が統合した方が良いと考えていた。しかし、委員の意見を聞いていく中で、北中は、それぞれ、門野中と南中に通えるようにしていけたらと思うようになった。地域の文化については、校外学習で地域同士で元々行っていたものを、それぞれ選択制にして学んでいければと思う。時期については、北中は令和9年度末までに再編と考えている。

委員：最初、北中は南中に統合と思っていたが、やはり意見を聞いて、今の北中の保護者や子供たちの状況を考えると、北中を再編した上で、門野中と南中の選択をしていく方向で良いのかなと思う。時期としては、やはり令和9年度には単学級に全てなってしまうので、令和8年度末までには整えていくべきである。留意事項については、通学方法は、配慮が必要である。路線バスの活用等、何らかの配慮が必要であると思う。今、南中は、送迎場所がなく、すごく大変なようである。北中の子たちが、南中に通うときの送迎場所の確保も心配している。地域の学習もしていかなければならないと思う。

篠原会長：これまでの意見を聞いて発言のある委員はいるか。

委員：北中エリアは、人によっては南中に行くより、湯川7丁目だったら、宇佐美中に行く方が近い。広野なら門野中の方が近い。そう考えると、南中だけというより、選択制もありだとは思う。さすがに、湯川から宇佐美中は接点がないから、行かないと思うが。それでも、自由な選択があった方が良いと思う。あとは北中の人数が少なくなっており、令和9年度になるまで1学級にならないで、維持できるかできないかだと思う。今、令和6年度であり、令和7年度、令和8年度でどれだけの子供たちが北中以外の中学に流れるか次第であると思う。

委員：先ほど、宇佐美の小学校や中学校を市街地に統合してはどうかと最初は

考えていたが、いろいろと考えて、意見を変えたという話があった。宇佐美と市街地の統合をいつかはやらなくてはならない。この先やらなければならないという可能性がある。そう考えたときに、無難に小中一貫校という発言をした自分の勇気のなさのようなものを感じたし、後悔するのかもしれないと少し思ったりもした。例えば、宇佐美の人たちが宇佐美中から市街地の中学に通うとしたとき、北中ではなく、別に南中であっても良い。大して変わらないので。南中に通うとなれば、宇佐美地区を今ここで維持して、問題を先送りさせて良いのかという疑問が少しある。自分自身が思い切った発言ができてない。別に宇佐美の方に忖度しているわけではない。ワンクッション置いて、数年後にいずれそうはなるだろうとは思う。

委員： 前回の懇話会の中でも、最終的には北部と南部の2校という話が既に出ている。今回は小中一貫校ということで。小中一貫校も初めてのことであり、今回の議論でも、いずれ北部と南部の2校になるという意見があった。少なくとも最終的には市内の学校に通うようになることが見えていながらの議論だと思う。

委員： 最初、効率だけ考えると、将来、中学校は2校と決めているなら、南中に統合で宇佐美は良いと思っていた。しかし、それは地域の人を無視しているし、効率だけ考えるのは乱暴過ぎるのではないかと考え直し、小中一貫校が良いかなど。とは言え、やはり長期的にはいずれ中学校は2校になるということも考えなければならぬ。行き当たりばったりで伊東市は決めていると言われてしまう。前回も含めてしっかり懇話会の中で議論を深めているので、市民の方にも丁寧に説明しながら進めていかなければいけないと思う。

篠原会長： 北中は再編していくという意見で統一したと思う。時期については、早ければ令和8年度4月から、遅くとも令和12年度4月からという話であった。最短の令和8年度4月からは可能なのか。

事務局： 令和8年度4月からは厳しい。

篠原会長： 令和9年度4月からは可能なのか。

事務局： 令和9年度4月からは、職員の配置等があり県との調整が必要である。市

の都合だけで決めることができない。

篠原会長：現実的なことで考えると、令和8年度4月からは、絶対的に無理ということか。

事務局：かなり厳しい。

篠原会長：単学級になるのが令和9年度4月からということなので、なるべく早くが良いと思う。

委員：令和9年度4月からか令和10年度4月からかである。単学級になるのが早いのかどうか。南中に行く子供が多ければ、思った以上に単学級になるのが早まると思う。あとは、令和11年度4月からである。今小学校に入った子供たちが中学生になることを考えるタイミングとなると令和11年度4月からと思った。

委員：令和9年度4月から単学級になる。それより遅くなることは多分ないという予測である。令和8年度4月から3学年単学級になるとしても、令和8年度4月から北中を再編することが難しいのならば、目標は令和9年度4月からを目指して、次の中学校の形を作っていくしかないと感じている。

委員：令和8、9、10年度と言ったが、あくまでも目安にしてということである。いろいろな状況を鑑みてということである。

委員：3学年単学級が早まる可能性の方が高いと考えるとなるべく早くということになる。

委員：質問である。何年度に北中を再編すると決定したなら、新入生の募集をしないというような配慮をするのか。それとも、入学する人は入学して、途中で転校をしてもらうような形になるのか。

委員：途中で転校になる。今までの3校統合や川奈小の例を見ていくと、存続している間はその学校に在籍していて、統合や吸収になった年から学校が変わるといったようなイメージである。

委員：例えば、小学校6年の時に、何年後に廃校が決まっていたと。それでも中学新1年生の募集をするのか。

委員：募集をすることにはなると思う。ただ、保護者の方にはそれを伝えなければならぬ。

委員：伝えて選択できるようにするのか。

委員：選択にするかどうかは、市教委の判断になると思う。

委員：選択できるようにして、みんなが南中に希望すると、中学新1年生を募集してもほとんどいないということが起き、1学年が数人ということがありえる。

委員：統合や廃校の予告を早めるとどうなるのか。

委員：今の仕組みでは指定校という仕組みがあるので、北中学区にいる子供は、南中に行けない。みんな北中に行かなければならぬ。いじめがある、部活動が北中にならぬからどうしても南中に行きたい、交通事情等の理由があり、一定の要件が満たされないと認められぬ。統合しそうだからは理由として認められぬ。

委員：先ほど南中に流れていくという発言があったが、流れていくにはしっかりした理由が必要であるということか。

委員：そのとおりである。指定校変更にはしっかりとした理由が全員にある。

篠原会長：それでは、意見をまとめる。北中については、統合ではなくて、再編する方向で、新たな通学先の中学校を、門野中と南中の選択制にする。時期については、一番早くすると、令和9年度4月からであるが、できるだけ早くということである。留意事項については、交通の補助と地域の学習を進めていくための配慮が必要である。以上でよろしいか。

（「異議なし」の声）

篠原会長：以上を旧市街地地区についての審議とする。他に何かご意見ある方はいるか。

委員：先ほど通学補助の話があったが、自分が通っていた対島中は電車通学の人がいた。通学補助があったのか。

委員：通学補助はない。

委員：今後、統合したときに、今の対島の方に補助は出す、出さないはどうな

るのか。

委員：統合となると、市の都合で統合することになるので、補助を出す。元々電車で通っている人については、それは自分がその地域に住むことを選んだので、補助が出ないと以前聞いたことがある。

事務局：そのとおりである。今会長がおっしゃったように、現状では、統合に関わるものだけの補助である。

委員：今日は、適正規模が与える教育結果への影響の話は出ていない。それは突き詰めたところで答えが出にくいものであるが。今まで伊東市として議論したし、もはやそんなに時間を割く必要もないと思う。例えば、海外留学に行く人がいる。海外に行くということはそこには危険があるし、いろいろな不都合や不便さ、何か警戒しなければいけないストレス等がある。それらを乗り越えながら、良い経験にして、何か学び取って人生に活かすことが想定されているので、頑張っって海外に行くと思う。これを学校の現場として考えると、規模の大小、地域の環境等いろいろある中で、不都合がある、少し乱暴な人がいて困っている、新しい友達と団結力が生まれた、といういろいろな経験が子供たちから語られる学校生活がある。適正規模については、いろいろ本を読んだし、素人ながら学んできたが、それとの因果関係というのはやはり分からない。ある程度の社会性を学ぶ必要はあるし、規模があって多様な人と関わる中でこそ、社会性を学ぶことができると思いがちだが、それすら分からない。教育現場は、本当に奥が深い。考えれば考えるほど、そういうふうに思う。私のような素人がこういう会議でこうあるべきだ、これは問題だっていうのは、やはり自分の中ではいつも疑問を持ちながら、いやそうは言うけれど、そんな確証ないよなと思いつつながらになる。福祉も教育もやはり同じように難しい。答えが出ない。いつもその不安な状態の中で発言していると感じる。

篠原会長：次に移る。「次回開催」について事務局の説明を求める。

掬川課長補佐：第3回は11月11日の月曜日午後2時から、低層棟3階議会事務局委員会室で開催する。次にこの場で第4回の日程調整を行い決定したい。

(委員に候補日の説明し、第4回は12月24日の月曜日午後2時から7人全員出席で開催することを決定する。場所は低層棟3階議会事務局委員会室になることを報告する。調査審議をする上で、委員が欲しいデータがあれば可能な限り準備することを伝える。)

篠原会長：事務局から提案のあったように、検討するに当たり、次回までに欲しいデータや資料がある方がいたら発言をお願いしたい。

(委員からの発言なし。)

事務局：会議録の公開と署名について説明する。会議録のホームページ公開は、会議録への委員署名後になることを説明する。会議録への署名人数についての決定を依頼し、会長のみ署名で会議録をホームページに公開していくことに決定する。

第2回教育問題懇話会で配布した資料について 次回以降も必ず持参するよう依頼する。

篠原会長：これをもって本日の会議は閉会とする。

以 上